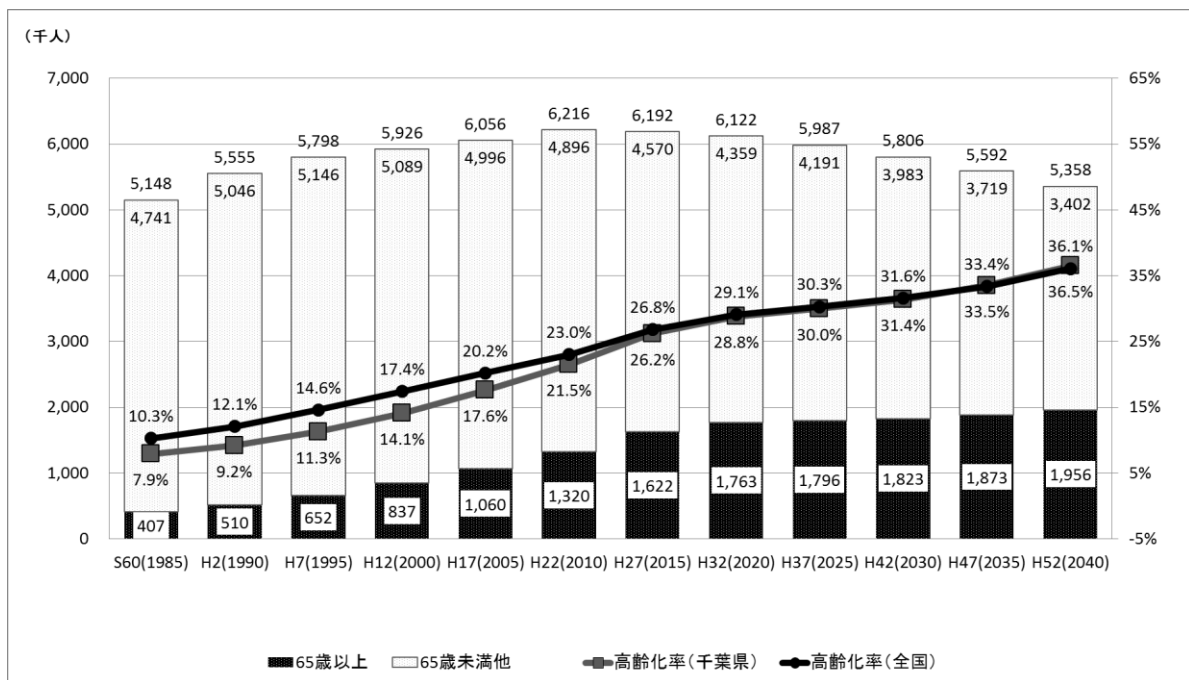


第1章 事業の概要

1. 背景

千葉県における65歳以上人口割合は2010年で21.5%であるのに対し、2040年には36.5%と今後30年で約1.5倍に増加することが見込まれている。特に65歳以上人口は急増し、死亡者に占める高齢者の割合が増大する見込みである。そのため、急増する高齢者が、人生の終わりの時期においてどのようなケアを受けるか、その重要性がますます高まることが予想される。

【千葉県の高齢化推移】



(出典) 総務省統計局「国勢調査結果(各年10月1日現在)」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」をもとに作成。高齢化率は、年齢不詳を除く総人口に占める割合。

千葉県では平成24年度より、人生の終わりの時期の医療の現場において、本人または家族が希望する療養生活を過ごすための意識の啓発、情報提供を目的とした啓発プログラムを作成し、広く周知する方法の検討に取り組んでいる。

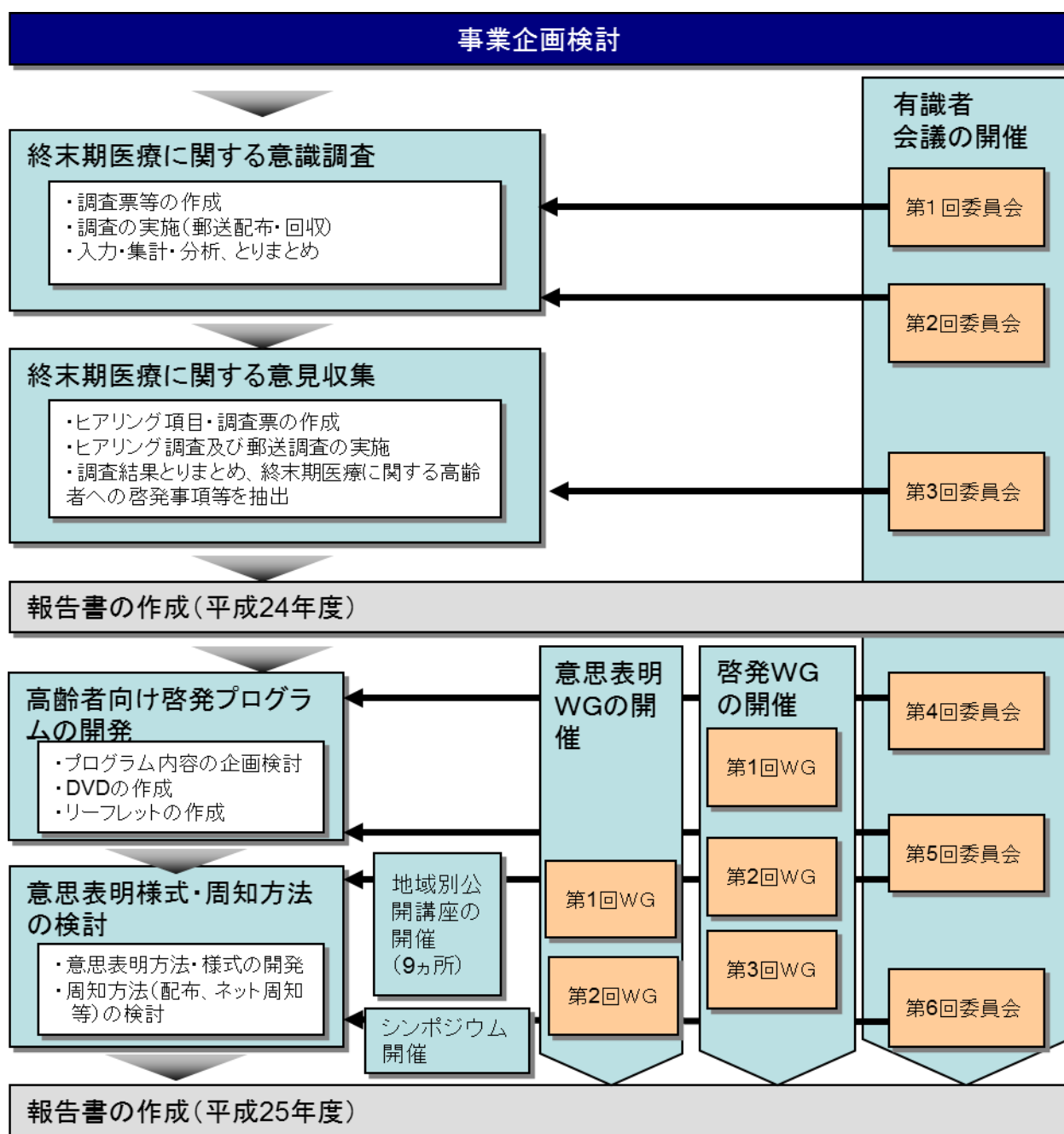
平成24年度は、千葉県民1万人を対象に県民意識調査を実施し、人生の終わりの時期の過ごし方についての意識・考え方の実態調査を行った。その中で自分が最期を迎える場所についてたずねたところ、「自宅で最期まで療養したい」人は全体の31.6%、「医療機関に入院して最期を迎えたい」人は全体37.4%であった。また自分自身の最期の過ごし方について「わからない」人は全体の23.1%にのぼった。

2. 実施概要

平成25年度は、平成24年度の県民意識調査を踏まえ、人生の終わりの時期の過ごし方について、県民にとって考えるきっかけづくり、情報提供、啓発等を重点的に行うことを目的として実施した。

具体的には、人生の終わりの時期の医療の現場において、本人または家族が希望する療養生活を過ごすための意識の啓発、情報提供を目的とした啓発プログラムを開発した。併せて、人生の終わりの時期にどのような医療を受けるかについて、意思表示の必要性や意義、意思表示様式のあり方、意思表示様式の活用方法・記載項目等についても検討を行った。

また、千葉県の2次保健医療圏ごとに、人生の終わりの時期に関する情報提供や「最期まで自分らしく生きる」をタイトルにした地域別講演会・シンポジウムを開催した。



3. 実施体制

本事業の実施に際し、平成24年度同様、有識者会議を設置した。また、啓発プログラムのコンテンツ開発、意思表示様式検討については、集中的・効率的に議論を進めるため、WGを設置した。

【有識者会議・WGの実施体制】

(有識者会議メンバー：50音順、敬称略)

委員長	氏名	所属・役職	啓発WG	意思表示WG
	井上 峰夫	千葉県福祉医療施設協議会 会長	○	
	大岩 孝司	さくさべ坂通り診療所 院長		○
	加藤 誠	成田赤十字病院 院長	○	
	栗原 正彦	一般社団法人千葉県歯科医師会 理事	○	○
	権平くみ子	千葉県訪問看護ステーション連絡協議会 会長		○
	清水 哲郎	東京大学大学院人文社会系研究科 特任教授		○
◎	高林 克日己	千葉大学医学部附属病院 副院長、企画情報部長	○	○
	田中 知華	京葉浦安法律事務所 弁護士		○
	土橋 正彦	公益社団法人千葉県医師会 副会長		○
	藤田 敦子	特定非営利活動法人 千葉・在宅ケア市民ネットワークピュア代表	○	○
	星野 恵美子	公益社団法人千葉県看護協会 常任理事	○	○
	眞鍋 知史	一般社団法人千葉県薬剤師会 副会長	○	

(オブザーバー) 千葉県 健康福祉部 健康福祉政策課 政策室

(事務局) 株式会社 三菱総合研究所 人間・生活研究本部

【有識者会議・WG の検討内容】

有識者 会議	啓発 WG	意思表 明 WG	開催 日程	議題
第 4 回			5/15 (水)	○平成 25 年度計画について ○啓発プログラムの内容について ○講演会について
	第 1 回		6/12 (水)	○啓発プログラム構成 (案) について ○啓発プログラム開発の進め方について
第 5 回			7/29 (月)	○講演会について ○意思表明様式について ○啓発プログラムについて
	第 2 回		9/3 日 (火)	○啓発プログラム構成及びナレーション原稿 (案) につ いて ○撮影スケジュール及びその他の確認事項について
		第 1 回	9/20 (金)	○意思表明に記載すべき内容 (案) について ○終末期医療に関する意思表明事項 (案) につい て
	第 3 回		10/24 (木)	○啓発プログラム初版について
		第 2 回	12/10 (火)	○意思表明 WG の検討方針について ○成果のまとめ方について
第 6 回			1/14 (火)	○報告書案について ○ポスター・リーフレット案について ○シンポジウムについて